大本山總持寺・大黒尊天

大本山總持寺さまへの大遠忌寄付・献上米のご協力ありがとうございました。

龍源寺檀信徒一件千円以上のご寄付をお願いしたところ、総額六十六万七千五百円の浄財が集まりました。龍源寺住職から百万円の寄付も加えますので、龍源寺から大本山總持寺さまに百六十六万七千五百円を寄付させていただきました。大遠忌の際は總持寺参拝の計画も考えております。ご協力ありがとうございました。

献上米も九月末に第二便を總持寺さまへ送らせていただきました。なんと龍源寺は県内で一番多くのお米が集まったとのことです。こちらも合わせてお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

平成25年度 寺子屋塾

境内散策

坐禅の説明に耳を傾ける子供たち

集合写真

編集発行　深見山　龍源寺　〒949-8311　新潟県中魚沼郡津南町中深見乙千百十八番地　☎(025)765-3305　http://www.shinkenzan.com

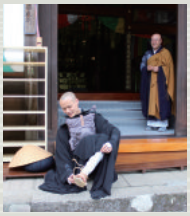
龍源寺報 67号

佛前結婚式挙行

龍源寺参道にて

平成二十五年十一月二日、深見山龍源寺本堂に於いて龍源寺住職の弟子であり次男である賢龍座元と津南町割野石橋亮一さんの長女であります志保さんの佛前結婚式が挙行されました。当日は天気にも恵まれ、花嫁が自宅で準備・出発をし結婚式会場である龍源寺に参るとのことで、式は始まる前から花嫁を一目見ようとたくさんの方が参道にお集りになっていました。式師・芦ヶ崎龍昌寺ご住職山田隆一老師のもと、龍源寺本尊・お釈迦さまの御前で厳粛なる雰囲気のうちに式を挙げることができました。賢龍座元は現在お寺が決まるまでの間、東京日野市にあるお寺の手伝いをしております。二人の新しい門出を祝しますとともに、皆様、末永くよろしくお願い申し上げます。

真龍上座、大本山総持寺送行


長い間お疲れさまでした

龍源寺住職徒弟、三男でもある真龍上座が七月二十二日に曹洞宗大本山総持寺での修行を終え、龍源寺に帰ってまいりました。修行道場をでることを送行と申しますが、真龍上座はおよそ三年五ヶ月の期間を総持寺で過ごし精進してまいりました。現在は龍源寺での檀務を住職、副住職とともにつとめ、平成二十六年五月には長野県飯田市のお寺で法戦式という儀式を勤めることが決まっております。行き先のお寺が決まるまで龍源寺の一員として頑張ってまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

故・藤ノ木一敏さんの遺意で

今年お亡くなりになった中山集落世話人・藤ノ木一敏さんの遺意により、御遺族からお寺へご寄付を頂戴いたしました。「お寺のために」という一敏さんの意志を尊重し、かねてよりの懸案だった本堂東側土壁修繕工事、庫裡玄関前階段の補修工事、庫裡飯台座外側土壁修繕工事をさせていただきました。現在、葬儀や法事のみならず様々な形で利用されている本堂と庫裡をこのように修繕補修ができて大変ありがたく思っております。私たちお寺の人間だけではなく、龍源寺檀信徒のみなさんにとってもありがたいことではないかと思います。このように気持ちを形にすることが故人の遺意にかなうことを信じて、あらためてご冥福をお祈り申し上げます。

庫裡玄関前階段→
←本堂土壁補修工事

曹洞宗で読誦される御経 その五 大悲心陀羅尼

般若心経以上によく読まれる御経、それがこの大悲心陀羅尼という御経です。曹洞宗では葬儀や施食などで読まれますので皆様にとってもなじみの深い御経といえます。どのような御経なのでしょうか？

「千手千眼観世音菩薩広大円満無礙大悲心陀羅尼経」という御経に含まれる陀羅尼八十二句（般若心経におけるギャーテーギャーテー・・・部分に相当するといえば分かりやすいかもしれません）がこの大悲心陀羅尼なのですが、誦持する者は一切の罪障・悪業が滅尽すると説き、千手観音さまの「十大願」を成就するといいます。分かりやすく言えば私たちの様々な罪を無くし、諸々の願いを成就してくれるというのが特徴といえます。大本山総持寺では毎朝のお勤めでこの大悲心陀羅尼を真読といってものすごくゆっくりと読経します。非常に荘厳な雰囲気で、龍源寺の本山檀信徒参拝団などに参加していただいてぜひその空気にふれていただきたいと思うものであります。

千手観音さまは別名「蓮華王」といい、左右合わせて四十の手、その眼を そなえますので四十の眼があります。四十手・四十眼はあらゆるところにいたらざることなしの意で、四十×二十五有（三界を二十五に分類したもの）で千という数になり、どこにでも出現するという信仰のある菩薩さまです。有名な三十三間堂は数多くの千手観音さまがまつられていますが、本当の名は「蓮華王院」。千手観音さまにちなんでいるというわけですね。千手観音さまは息災・増益・滅罪・離障がその功徳といいますので、兵火の滅罪のために後白河法王が平清盛に造営を命じたようです。このように権力者からも篤い尊崇を受けた千手観音さまですが、私自身もこの蓮華王という名前がとにかくかっこいいなと思う仏さまで、いろいろな像を見るのが楽しみな仏さまのお一人です。皆様も是非、いろいろな千手観音さまにふれていただきたいなと思います。ちなみに龍源寺にはまつられていない仏さまでもあります。

言の葉散策 第8回

光陰を虚しくするが何よりの殺生

昨年、龍源寺にお越しいただいた青山俊董老師からご紹介いただいた星見天海老師のお言葉です。天海老師百回忌の講演会のおりにこのお話をしてくださいました。（詳しくは龍源寺報六十四号）光陰とは時間のこと、「光陰矢の如し」でなじみのある言葉ではないでしょうか。光陰は矢が射たれるが如く、はやく過ぎ去ってしまう。その自覚を促す言葉がこの天海老師の言葉になったように思います。もし、私たちそれぞれが自分の寿命がはっきりわかったなら、きっとみんなそこからの生き方を見直すことでしょう。残り十年だったら何をするか。一年だったら・・・。一ヶ月だったら・・・。ちょっとしたら・・・。一時間だったら・・・。現段階で寿命がわかったとして、その寿命が短ければ短いほど混乱を起こし、覚悟もままならないのが私たち人間の日常ではないかと思います。そんなことを考えると時間というものは非常に貴重で、まならなくて、命のように大切なものともいえます。寿命を知ることができたならこうも考えるのではないでしょうか、「生きているということは有り難いし、あたりまえのことではないのだな」と。命の期限がわからないからこそ人生は自由であり、楽しいと考える人もいるかもしれません。しかし、命に限りがあることは誰にでもいえることであり、終わりがくることも間違いのないことです。わからないから自由にやれる、楽しくやれるという考え方から、限りのある自覚から自由に楽しく人生を過ごすという考え方のほうが実りある人生になるような気がします。ちょっとした違いなのですが、生き方に変化をもたらすのではないでしょうか。みんなきっと頭では命に限りがある、時間はどんどん過ぎ去っていくことはわかっているのです。しかし、そのことを心と体で理解することができるかどうか・・・。切ない話ですが、病気になったり事故にあったり、自らの命が揺らぐことがないと人生の儚さというものはなかなかわかってこないのです。努力をすることに年齢は関係ありません。そしてその努力が独りよがりで終わってもいけません。周りに対していかに心を施していけるかどうか・・・。心に豊かさのある時間、そして人生にしていきたいものです。

歴代の祖師たちは命に限りがあること、時間は問答無用に過ぎ去っていくこと、だからこそ時間を惜しんで精進をすることを再三再四申します。お釈迦さまご臨終の言葉もそこに関係がでてきます。お釈迦さまは嘆き悲しむ弟子たちに伝えます、「諸々の事象は過ぎ去り行く。だから弟子たちよ、怠ることなく修行を続けなさい」と。私たち仏教徒の一つのテーマが、この天海老師のお言葉に現れていることがよくわかります。時間を虚しく過ぎ去っていかせるほどの殺生はないという表現の仕方は過激に思う方もいるかもしれませんが、天海老師なりの方便で自覚を促す言葉だなと私自身はひしひしと感じます。努力をすることに年齢は関係ありません。そしてその努力が独りよがりで終わってもいけません。周りに対していかに心を施していけるかどうか・・・。心に豊かさのある時間、そして人生にしていきたいものです。